

令和6年度世田谷区立旭小学校学校関係者評価委員会報告

世田谷区立旭小学校
校長 風間 淑江 殿

令和7年 2月10日
世田谷区立旭小学校
学校関係者評価委員会

学校関係者評価アンケート調査に基づき、校長・副校長との意見交換を行い、旭小学校の教育活動や学校運営について評価を行った。評価をするにあたっては、学校公開・行事等の参観とこれまでと同様、児童・家庭・地域の客観的な現状把握を行い、学校の成果と課題を分析した。結果を以下のとおり報告する。

I 【学校関係者評価アンケート調査】

《総評と提言》

WEBでの回答もかなり改善されているが、保護者の回答率は54.0%ととても低かった（コロナ前は80.0%以上）。回答依頼などを工夫し、全保護者に学校関係者評価システムの目的を引き続き周知していきたい。評価アンケートは、児童・保護者・地域からの学校への意見として、より的確な分析を行うためにも、改めて来年度の回答率アップへのご協力をお願いしたい。

児童は『先生たちに相談できる』が56.8%と低く、否定的評価が34.8%と昨年度の倍になっている。

【提言】先生以外にスクールカウンセラーに相談できる環境ではあるが、相談しにくい理由を探ると共に先生から問いかける機会があってもいいと考える。児童が求めるタイミングを見逃さないようにお願いしたい。

保護者は

①キャリア教育に関する項目でE分からないの数値が昨年同様に高かった。保護者会やお便りでキャリアパスポートの説明はしているが、質問内容と繋がっていない可能性がある。

【提言】キャリアパスポートを通じて、キャリア教育の支援・授業をどのように行っているか保護者に伝えてほしい。

②『学校公開に参加している』92.5%と評価は高いが、『行事などにすすんで協力している』は64.2%（否定的評価32.6%）と低い。PTA活動を通して保護者同士コミュニケーションをとることで、子どもたちの学校生活を充実させていけるのではないかと考える。

【提言】PTA本部には「協力が難しい理由は何か」「どのような活動方法なら協力できるか」意見収集していただき、多くの保護者が少しずつでも協力できる体制作りなどの検討をお願いしたい。保護者も教育活動の充実に向けての参画意識を高めてほしい。

地域については例年通り、全体的に肯定的評価が高い。通学路の見回り・昔遊び・読み聞かせ・漢検等、日常的にたくさんの方々が児童を見守ってくださっている。

回答数及び回答率

- ・保護者 556 名中 299 名（回答率 54.0% ※昨年度 68.0%）
- ・5、6 年児童： 158 名中 139 名（回答率 88.0% ※昨年度 92.5%）
- ・地域の方： 64 名中 25 名から回答（回答率 39.0% ※昨年度 113 名中 45 名 40.0%）

調査結果の分析・評価

☆ 個別評価結果について A (とても思う) + B (思う) を「肯定的評価」として、C (あまり思わない) + D (思わない) を「否定的評価」として記述する。

☆ また、A (とても思う) + B (思う) が 75%以上を「良い評価」の目安とした。

※これ以降 文中の%表示は肯定的評価数（A+B）を表す。

《学習指導について》

○児童は『先生は課題について考える時間を授業の中で取っている』全体 81.3%『授業では話し合ったり発表し合ったりする機会がある』が全体 90.7%と高い。『映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業』は 69.7%（昨年度 85.1%）と下がっている。否定的評価も 23.9%と高く、ICT 活用の課題を探ってほしい。

○保護者は 4 項目とも昨年より評価が下がり、肯定的評価 80%を超える項目が無かった（2 項目は 75%に達している）。

《生活指導について》

○児童は、例年肯定的評価が高い項目だが『注意されたことは理解できる』の 5 年生が否定的評価 21.3%と高い。

《学校行事について》

○児童は『学校行事は楽しい』全体 83.1%、『達成感がある』全体 81.6%と高い。ただし、5 年生は『達成感がある』否定的評価 23.4%、『先生は児童の意欲を大切にしている』否定的評価 25.5%、E 分からない 14.9%と気になる結果となった。

○保護者は『学校行事は子どもにとって楽しい』全体 92.8%、『子どもにとって達成感がある』全体 93.7%、『子どもの意欲を大切にしている』全体 84.1%と例年通り評価が高い。

《キャリア教育について》

○児童はキャリア教育についての項目は、昨年とあまり変わらない。将来についての項目なので、個人差はあるように思う。

○保護者はキャリア教育については、E 「わからない」 の数値が相変わらず高い。キャリアパスポートについては、学校も保護者会やおたより等で周知する工夫をしている。この項目での質問内容とキャリアパスポートが繋がらない可能性も考えられる。

*キャリア教育とは・・・一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てるこを通じて、キャリア発達を促す教育

（中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」（平成 23 年 1 月 31 日）

*キャリアとは・・・人は、他者や社会とのかかわりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等、様々な

役割を担いながら生きている。これらの役割は、生涯という時間的な流れの中で変化しつつ積み重なり、つながっていくものである。また、このような役割の中には、所属する集団や組織から与えられたものや日常生活の中で特に意識せず習慣的に行っているものもあるが、人はこれらを含めた様々な役割の関係や価値を自ら判断し、取捨選択や創造を重ねながら取り組んでいる。

人は、このような自分の役割を果たして活動すること、つまり「働くこと」を通して、人や社会にかかわることになり、そのかかわり方の違いが「自分らしい生き方」となっていくものである。

このように、人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところである。

(中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」（平成23年1月31日）)

《先生について》

○児童は『先生はていねいに指導してくれる』全体83.9%と評価は高い。『先生たちに相談できる』全体56.8%と昨年度より下がっている。否定的評価34.8%（昨年度17.1%）は昨年度の倍という点でも無視できない。先生に相談できない理由とは何か、状況を把握していく必要がある。相談相手が先生から友達に変化していく時期とはいえ、相談できる大人の存在は必要であり、先生・家族以外の大人にも相談できるということを周知してほしい。

*スクールカウンセラーからは「困ったことがあった時に誰かに相談することは、新たな選択肢に気付くために必要なプロセス。困ったときにSOSを出す力を育てていくことが大切な資源になる。」とメッセージもありました。

○保護者は『子どものことを相談しやすい』全体82.8%と昨年より上がっている。

《全般について》

○児童は『学校生活は楽しい』全体83.0%。『学校が好き』全体66.1%。この項目は90%以上を望みたいが、楽しいと好きの違いなど児童の考え方の多様性と、回答するタイミングの精神的状態によって数値が変化する、と大人の常識を変える機会でもあり、児童の考え方を探ってみたいとも思う。

『家庭で宿題やeラーニングの学習をしている』全体59.3%（昨年度71.9%）。『学び舎の中学校との往来の機会』全体68.6%（昨年度71.3%）。

○保護者は『学校生活は子どもにとって楽しい』全体86.2%と評価が高い。『家庭で自主的に学習している』全体54.6%（昨年度58.9%）。「自主的に」という問い合わせが数値を下げているようにも思うが、家庭学習の仕方や教材等、工夫しながら少しの時間でも家庭学習をする様子を見てあげていただき、習慣化できるようお願いしたい。

《学校について》

○保護者は『学校公開や保護者会などで児童の様子がわかる』全体92.5%、『学校公開に進んで参加している』全体92.5%と高評価。一方で『学校行事、PTA行事にすすんで協力している』は全体64.2%（昨年度59.5%）と昨年度から少し上がっているが、児童のために学校運営に協力する保護者が増えることを望む。

《独自項目について》

○児童は、昨年度より下がっているがほとんどの項目で高評価。『あいさつ』については、昨年度より上がっていて高評価になった。

『よく聞いて授業に取り組んでいる』全体 80.5%

『よく聞いて自分の考えを持つことができる』全体 74.6%

『読む力・書く力・計算する力が伸びてきた』全体 73.7%

『あさひっ子班活動や様々な人との交流に楽しく取り組む』全体 77.1%

『相手を思いやった言葉や行動』全体 80.5%

『自分や友達のよさに気付く』全体 80.5%

『自分からあいさつできる』全体 77.1%

『体を動かす遊びをしている』全体 67.0%

○保護者は

『よく聞いて授業に取り組んでいる』全体 76.8%

『自分の考えを持つことができる』全体 77.7%

『読む力・書く力・計算する力の基礎力が伸びてきた』全体 78.3%

『あさひっ子班活動や様々な人との交流に楽しく取り組む』全体 79.3%

『相手を思いやった言葉や行動』全体 70.8%

『自分や友達のよさに気付く』全体 79.6%

『自分からあいさつができる』全体 62.7%

『体を動かす遊びをしている』全体 67.4%

II 【教職員による自己点検】

A…十分到達 B…おおむね到達 C…やや不十分 D…不十分

1 「知」の項目

重点目標「見方・考え方や身に付けた力を振り返り、新たな問いを見いだす子どもの育成」に努めている。

A…8.0% B…92.0% C…0% D…0%

学校目標「よく考える子ども」に近づいている。

A…0% B…100% C…0% D…0%

- 思考力・判断力に関わる項目について、教員全員が「十分到達」、「おおむね到達」と答えている。
- 区教育委員会より示されている「せたがや探求的な学び」で求められている、探求的な学びのサイクル、特に「学んだことを振り返り新たな問い合わせを見いだす」プロセスを充実させるために引き続き、1単位時間における導入・発問・振り返りの工夫、ＩＣＴ機器の効果的な活用、学習意欲を高める学習過程や教材の工夫等、授業改善の継続が求められる。
- 今年度校内研究主題「自ら課題をもち、主体的に学ぶ児童の育成」で国語・算数・体育に焦点を当て取り組む中で、教職員全員が新たな問い合わせを見いだせるような手立てを考えてきた。来年度も継続することでその定着を図る。

- 自分で考えて「これを知りたい」と納得できる問い合わせを見いだし、それぞれが個性や能力を発揮しやすい方法で調べ、考え、結果を共有する授業を組み立てることが必要とされている。「教師が教える」授業から「自分で考えて、『これを知りたい』と納得できる問い合わせを見付けたり、それぞれが個性や能力を発揮しやすい方法で調べたり考えたりする」授業へ教員自身の姿勢を変えることで「よく考える子ども」の育成を図る。

2 「徳」の項目

重点目標「互いのよさを認め合い、自他ともに尊重し合う子どもの育成」に努めている。

A…39.0% B…61.0% C…0% D…0%

学校目標「思いやりのある子ども」に近づいている。

A…68.0% B…32.0% C…0% D…0%

- 「思いやり」に関わる項目について、教員全員が「十分到達」、「おおむね達成」と答えている。
- 平成30年より研究を重ねていた東京都教育委員会人権尊重教育推進校としてのレガシーを生かした「人権の花」「人権集会」「あいさつ運動」等の取組、響きの学び舎で共通して取り組んでいる「相手を大切にする心」「あいさつ」等、保護者・地域・学校が三位一体となって注力している成果が表れていると考える。
- 人権尊重教育推進校ではなくなったが、校内研究副主題として「児童相互の関わり合いを通して」とあるので、授業の中でも、友達との協働場面を意識している。その中でも人との関わり方を児童が考える機会を取り入れていることも成果につながっていると考える。

3 「体」の項目

重点目標「体力を向上し、健康の保持・増進を図る子どもの育成」に努めている。

A…0% B…85.0% C…15.0% D…0%

学校目標「元気にやりぬく子ども」に近づいている。

A…12.0% B…88.0% C…0% D…0%

- 「体力・健康」に関わる項目について、昨年度同様、「十分達成」の数値は極めて低く、また、重点目標については「やや不十分」と回答している教員が2割弱いる状況である。
- 学校全体の取組として運動朝会における長縄・短縄への取組を行っているが、心身の健康にもつながる体力向上に向け、まずはスポーツへの情意向上や多様性への理解を図れるような授業の実践、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことのできる運動への取組、外遊びや集団遊びの奨励等、児童の日常的な運動習慣の形成が図れるようとする。
- 休み時間に校庭や体育館が使用できるときは、教室内に残らず体を動かす遊びを促し、日常的な体力向上を図れるようにする。
- 今年度、体育授業の充実を図るために校内研究に体育科を取り上げたので継続して進められるようとする。

令和 6 年度 旭小学校学校関係者評価委員会
委員長 前川 由美
伊津 雅弘
谷戸 玲子
井上 美佳
深澤 起子
伊藤 珠絵
川上 裕佳子